348

|際交流いっぱいのキャンパ し新協定 2019.07

国際交流センター長 バーチ・グレゴリー (BIRCH, Gregory)

発展を図ります。 湾研修を刷新し、各事業の維持・ 今年度はカナダ研修を新設、台 交流協定を締結し、それに伴い、 カトリック大学(米国)と学術 (カナダ)、東方設計大学(台湾)、 新たにカルガリー大学

派遣事業では、一学期を海外

春休み(オーストラリア、 留学と、夏休み(カナダ、 本が中心です。セメスター カンボジア)の海外研修6 台湾、韓国、モンゴル)と



ミズーリ大学生来校(5/29-30)

る姿勢を身につけ、各研修で設 とし、現地の人と積極的に関わ スキル)を養成することを目的 げ、異文化理解能力(態度・知識・ 持った旅、学びを創る旅」を掲 海外研修プログラムは「問いを 秋学期には1名が渡航予定です。 留学は春学期に6名が実施中で

得て、事後研修のレポートや成 先の知識や海外渡航の心構えを ら現地で過ごすように設計され 果発表により学びを深めます。 ています。事前研修により訪問 定された問いの答えを探しなが

ちが積極的に交流し、視野を広 きます。好奇心あふれる学生た 迎えする機会があります。これ と題して数回外国のお客様をお 短期訪問も受け入れており、他 とともに一学期間学びながら単 げる機会にしてほしいと願って 0) にも、インターナショナルカフェ、 流を経験します。 位取得をめざし、さまざまな交 入れます。留学生たちは清泉生 4名のセメスター留学生を受け 大学から、春学期3名、秋学期 ある韓国の漢陽(ハニャン)女子 方々と行動し、経験を共有で はいずれも、学生が直接外国 受入事業としては、姉妹校で 漢陽の学生

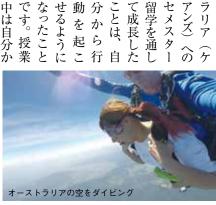


〈セメスター留学レポート〉

多様性を生きる中から

国際コミュニケーション科2年 矢澤 舞香

ことは、 て成長した ラリア (ケ 留学を通し セメスター アンズ)への オースト



ら意見を発することによって評価さ 中は自分か

ことが自然にできるようになってい 強には力を入れていきたいです。 生かしていけるよう、これからも勉 理解するのも楽しかったです。英 ので、英語だけでなく、各国の文 色々な国から留学生が集まっていた できるようになりました。 本当に れば、自分から人に尋ねることが 出かけた時にわからないことがあ きました。また、授業以外でも、 見を言ったり、会話をしたりする でした。とくに「話す」能力が大 自己主張をすることはとても重要 れ、クラスが上がることが多いため、 たと感じているので、将来の職業に 語力は行く前よりも確実に身につい 化や習慣も学び、一人一人の個性を きく評価につながるため、自分の意 (2018年9月~19年2月)

〈カンボジア研修レポート〉

幼児教育科2年 宮坂 愛梨

保育者になるために

した。 あるのではないかと思い、参加しま 関わるなかで何か得られるものが り、現地の孤児院の子どもたちと 私は将来保育者を目指してお

は英語で話さなければいけません。 間にか楽しくなっていました。いろ が好きなのではないかと気づくと、 どもたちは体を使って表現すること れました。また、私は言葉だけで え、積極的に関わろうとしました。 私はこれを貴重な体験であると考 は違い、カンボジアの子どもたちと いろな手段を使ってコミュニケーショ ようになり、会話をするのがいつの 次第に私も自然に英語が出てくる 交流しようとしていましたが、子 語を一生懸命聞き取ろうとしてく それでも子どもたちは私が話す英 最初は会話が弾みませんでした。 大人と関わる時も一緒だ」と実感 しました。 「これは子どもに限ることではない。 ンすることが大切であるとわかり、 日本の子どもと会話をする時と





孤児院の子どもたちと